



リフトにひとりずつ乗って上まで行こう



ポールを持って、片足スキー競争。真剣そのものだ



スキーをする前にみんなで準備体操、はじめ一



一列になって滑ろう、みんな転ばずに上手だね



コーチが手伝ってくれるから、降りるのも安心



コーチのところまで雪を蹴散らして歩け、歩け

上達の近道はマイペースで

スキーを教えてくれる先生は、いつものコーチ。声援を送ってくれるのは、サッカーと一緒にする仲間。そんな環境のなかで、スキーを習ったら、とてもリラックスして覚えられそうだ。できなければ何回でも根気よく、その子のペースに合わせ、焦らず、スムーズに習得させていく。スキーの基本形を覚えたら、まっすぐに滑ってみる。慣れてきたら、ターンへと進んでいく。確実にステップアップするよう、コーチはひとりひとりの個性も把握しているのだ。



スキーのトップをハの字にするのが基本。手とり足とり教えてもらう



順番に、きれいなハの字をキープして、慎重にゆっくり滑る



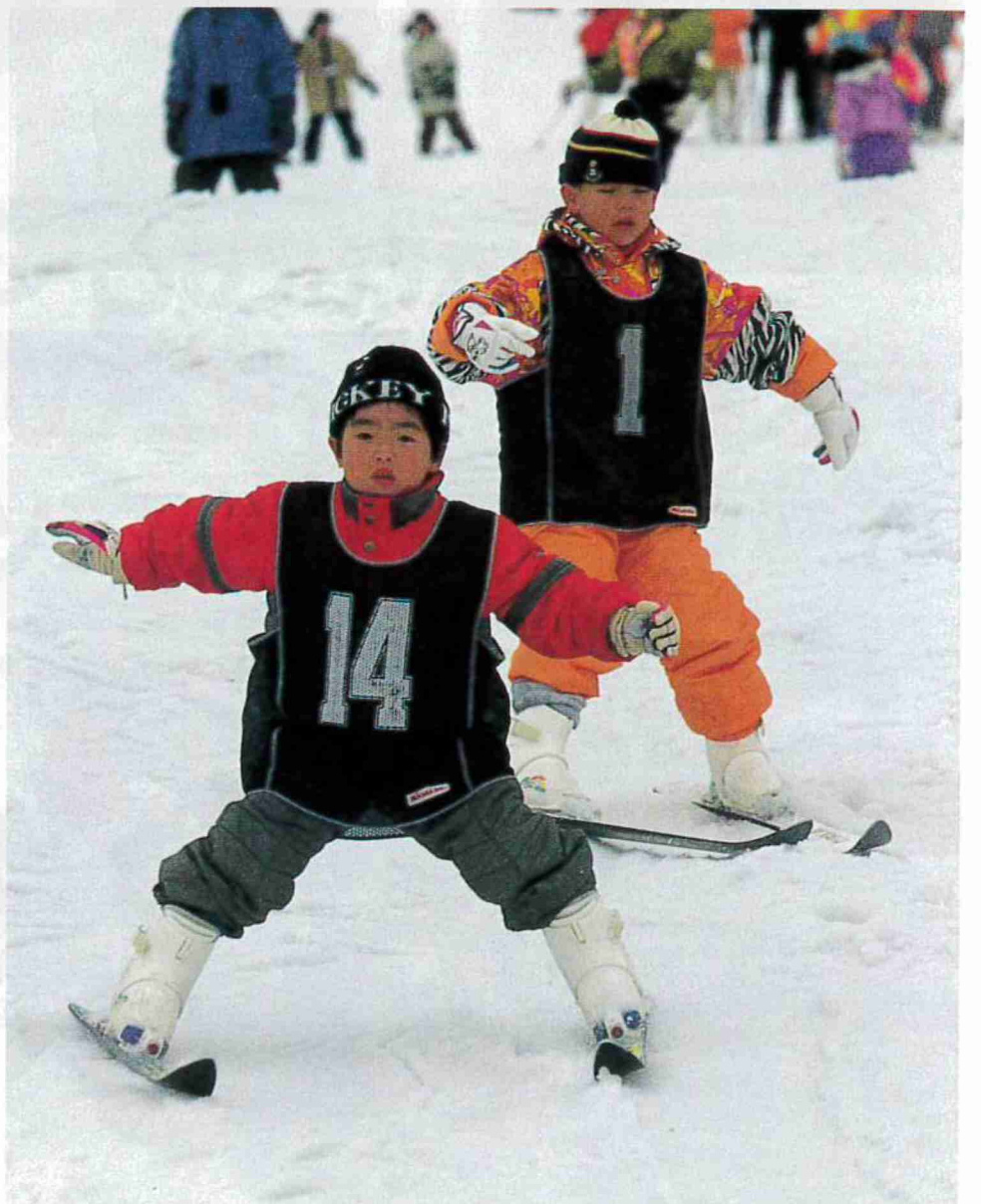
ターンのキッカケをつかむために、ヒザを手で押しながら踏み込む

転んじゃった、でも楽しいね



と、このクラブの校長でもある池田先生は語る。ずーっと遊んでいたけれど、お父さんとお母さんが待っているお家に帰らなくちゃ。昼食前に宿に戻り、帰り支度にとりかかる。みんな、自分のことは自分でできるんだ。午後4時、家族が待つ上野駅に到着。劇的な再開!? 「おかえりなさい」のお母さんの声にちよつと照れてる子供たち。お母さん、楽しい思い出たくさん話してあげるね。

「のびのびと遊ばせてあげることが子供にとってはイチバンです。強制されて何かをしてもつまらないですよ。大人だってそうなんですから」
子供たちの人数分あるソリを発見したからだ。犬ころのように転げまわって遊ぶ子供たちを見ていて、



足も腕も思いっきり広げて、バランスをとりながら、ハの字の姿勢で滑り降りる

「縦一列になって、順番にみーんなで一緒に滑ろうよ」
「賛成！」
というわけで、出発。アツという間に1本滑り終わり、さて、お次は…。本当は子供たちに何をしたいか決めさせようとコーチは考えていたのだが、それは言うまでもなくソリ遊びに決定したらしい。